

のスタートへ何を思う…

きか。原爆の子の像のモデルとして平和の象徴となった佐々木禎子さんの
さんに、平和への思いを伺いました。



自分の目で見えて聞いて「平和とは何だろう」と考え、
その思いを次へつなぐ「平和のリレー走者」になってほしい

シンガーソングライター 佐々木 祐滋さん

昭和45年6月6日生まれ。原爆の子の像のモデルとして知られる佐々木禎子さんの甥。全国各地で、音楽を通して命の尊さや平和の大切さを伝える活動を行う。平成27年、禎子さんの遺品である折り鶴(禎子鶴)を我孫子市に寄贈するなど、市の平和事業へ協力。NPO法人「SADAKO LEGACY」の副理事長として活動中。

「平和のうた」制作

星野市長 平和事業推進市民会議から提案があった時「せっかく作っても2～3年で歌わなくなるような歌ならボツだぞ」と言いましたが、学生が中心となって歌詞を作り、佐々木さんに作曲をお願いすると聞いて「なるほど」とゴーサインを出しました。

佐々木さん すごいプレッシャーでしたが「みんなで歌を作れる」というのは光栄でした。市長に「みんなが口ずさめるような歌を頼むよ」と言われて、またプレッシャーがかかりましたが(笑)。制作にあたっては歌詞が最初から良く「水面にともる灯籠」という歌詞が手賀沼の風景と重なり、曲作りにインスピレーションを与えてくれました。

星野市長 実際に平和の集いで歌を聞いた時、今までの平和事業が全て歌詞に含まれていたし、我孫子が伝えていきたい平和と禎子さんの人生が重なって、思わず涙が出てしまいました。

佐々木さん ありがとうございます。実は、市長がかたくなに「本番までは聞かない」とおっしゃっていたと聞いたので、ものすごくプレッシャーでした(笑)。

星野市長 それは申し訳ないです(笑)。でも思っていたよりも明るい曲で、小・中学生にも歌いやすそうだから本当に良かったです。

佐々木さん そう言っていただけるとうれしいです。僕も会場全体が一つになっていて、本当に感激しました。

星野市長 そうですね。この歌を佐々木さんと一緒に広めていき、これから先ずっと歌い続けられるものにしたいです。

佐々木さん ぜひお手伝いさせてください。

戦後80年・平和都市宣言40年記念事業として、作詞を平和事業推進市民会議、作曲を佐々木祐滋さんが担当し「平和のうた」を制作しました。歌は市ホームページで公開しています。



▲市HP



▲令和7年12月14日に行われた平和の集いで「平和のうた」を初披露



▲佐々木さん、歴代派遣中学生、平和事業推進市民会議のメンバーで「平和のうた」を合唱。アンコールがあり参加者全員で歌いました

平和都市として、我孫子市の今後

佐々木さん 僕から言うことはありません。むしろ市長がやられているこの我孫子市のスタイルを、他の自治体にもまねしてほしいです。これからも、市民が自発的に継続していける事業であってほしいと願います。

星野市長 ありがとうございます。これからも継続するために、時代に合わせてやり方を変えてもいいと思うんです。後世へつないでいくために、考え続け

ていきます。

佐々木さん つないでいくことが大事だと痛感したのが、3年前広島の中学校へ歌いに行った時、8月6日の出来事を2割の子どもが知らなかったという事実です。風化は本当に恐ろしいです。

星野市長 我孫子の子どもたちでも、リレー講座に参加して初めて8月6日・9日のことを知ったという子がいます。風化への危機感を共有し、時代に合わせて伝え方を変えながら、平和活動を継続していく必要がありますね。

市民へのメッセージ

星野市長 私が市長になる前は1年間に1,200人生まれていた子どもたちが、今では600人ほどです。せっかく生まれた子どもたちが、夢や目標に向かって頑張れる社会を作っていきたい。そのために、私たちの体と心、そして社会の健康を守らなければいけない。今の平和が当たり前ではないと認識し、その状態を続けるために何ができるかを考えてください。

佐々木さん 僕の活動のコアメッセージとも重なります。我孫子市には平和の記念碑や折り鶴、リレー講座など、平和を身近に感じられるきっかけが豊富にあります。せっかく我孫子に住んでいるなら、自分たちの平和な生活に向け、これらを活用してほしいです。

未来を担う子どもたちへのメッセージ

佐々木さん 未来の子どもたちには、本当に自由でいてほしいです。我孫子市の事業が、これから生まれてくる子どもたちにつながってほしいと強く願っています。もし機会があれば、我孫子市の中でさまざまな国の方と交流できるようになればうれしいです。自分の目で見えて聞いて「平和とは何だろう」と考え、その思いを次へつなぐ「平和のリレー走者」になってほしいと思います。

星野市長 戦争はそれぞれの国の生活習慣や伝統文化、宗教の違いから生じます。人同士ならけんかで済むことも、国同士では戦争になる。言葉や生活習慣、宗教の違いがあっても、きちんと話し合いができる大人に育ってほしい。けんかという手段を使わずに解決できる力を持った若者が増えることを願っています。

これからも……

星野市長 広島・長崎の原爆や東京大空襲など、戦争の悲惨さをさまざまな形で子どもたちに伝え、二度と繰り返さないためにも、若い力と一緒に平和事業を継続していきます。ぜひまた我孫子に来て、お手伝いしていただければと思います。本日はありがとうございました。

佐々木さん これからもよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。



【編集後記】 対談では、二人の言葉から平和への並々ならぬ熱量を感じました。佐々木さんが語る禎子鶴がつなぐ国境を越えた絆。市長が語る子どもたちがつなぐ平和のリレー講座。お二人が次世代へ託す「平和のバトン」を強く感じました。本特集が皆さんの心に何かを問いかけ、明日の平和を考えるきっかけとなれば幸いです。